松前町商工会経済レポート（平成 30 年度第 1 四半期）

松前町商工会

本レポートは、愛媛県や中小企業庁が公表する各種経済動向調査の概要を四半期毎に取りまとめ、報告するものです。

１．最近の県内経済情勢

愛媛県では、各種経済指標や県内産業の動向をとりまとめ、毎月、月末をめどにホームページ上で「最近の県内経済情勢」として公表しています。その中から、愛媛県の経済概況と、町内主要産業別の状況を抜粋して掲載します。

（１）愛媛県の経済概況

一部に弱い動きがみられるものの、緩やかな持ち直しが続いている。 前月との比較 ⇨

○個人消費 前月との比較 ⇨

一部で振れを伴いつつも、全体としては持ち直しの動きとなっている。

【百貨店・スーパー販売額】前年同月比1．0％減少、4か月連続で前年を下回る。
【専門量販店販売額】ドラッグストアは14か月連続で、ホームセンターは2か月連続で前年を上回る。
家電大型専門店は2か月連続で前年を下回る。
【コンビニエンスストア販売額】公表開始から22か月連続で前年を上回る。
【新車販売台数】普通乗用車は7か月連続で前年を下回り、軽乗用車は2か月ぶりに前年を上回る。

○住宅・公共工事

住宅着工は弱い動きとなっている。 前月との比較 ⇨

公共工事は持ち直しの兆しがみられる。 前月との比較 ⇨

【新設住宅着工戸数】前年同月比39．1％減少、7か月連続で前年を下回る。
【公共工事】請負金額の年度累計における前年同月比は14．2％増加。

○生産活動 前月との比較 ⇨

このところ弱い動きとなっている。

【鉱工業生産指数】前年同月比（原指数）6．8％上昇、2か月連続で前年を上回る。
一般機械、プラスチック製品、化学等の業種で前年を上回る。
窯業・土石製品、輸送機械、食品・たばこの業種で前年を下回る。

○雇用・所得

雇用情勢は着実に改善が続いている。 前月との比較 ⇨

雇用者所得はこのところ弱い動きとなっている。 前月との比較 ⇨

【有効求人倍率】1．56倍と56か月連続で1倍を超えた。
【正社員有効求人倍率】1．03倍と、98か月連続で前年を上回る。
【現金給与総額】名目では前年比1．3％増、3か月ぶりに前年を上回る。
実質でも0．4％増、3か月ぶりに前年を上回る。

（資料）愛媛県産業政策課「最近の県内経済情勢（平成 30 年 5 月分）」より転載
http://www.pref.ehime.jp/h30100/jousei/documents/jyousei3006.pdf（参照 2018-07-02）

（２）地場産業の状況（平成３０年１月～３月の状況）

業種	産業事情
自動車関連	３、４月に新車販売が伸びることから、高操業を維持している。
鉄工	中小鉄工は、新居浜地域・西条地域で、全体として需要は好調であり、一定の操業度を維持している。 銑鉄鋳物は、農機、建機等で需要が持ち直し傾向にあり、生産は前年をやや上回っている。 鉄構は、鉄骨需要が伸びており、高操業を維持している。
陶磁器	春が需要期であるものの、生産は前年を下回っている。
珍味品	高操業を維持しており、生産は前年をやや上回っている。
陸運関係	地域にばらつきはあるものの、利用者の減少や燃料費の高騰などから業況は下向きとなっている。また、一部の事業者では人手不足により仕事に制限が出ている。

（資料）愛媛県産業政策課「最近の県内経済情勢（平成 30 年 5 月分）」より抜粋して掲載
http://www.pref.ehime.jp/h30100/jousei/documents/jyousei3006.pdf（参照 2018-07-02）

２．中小企業景況調査報告書

「中小企業景況調査」は、中小企業施策立案の基礎資料を収集するために、(独)中小企業基盤整備機構が四半期毎に実施、中小企業庁と同機構が共同で結果を取りまとめ、公表しています。

（１）業種別業況判断ＤＩと天気図

「中小企業景況調査」では、業況判断ＤＩ調査が実施されています。

ＤＩとは、前年同期と比べた今期の状況について、「増加（上昇、好転)」の割合から「減少(低下、悪化)」の割合を差し引いた値で、景況感の相対的な広がりを示すものです。

以下の記号とＤＩ値の関係に基づいて、直近の調査報告データを視覚化してご紹介します。

＜記号とＤＩ値の関係＞

快晴	晴	薄曇	曇	雨
～30.1	30.0～10.1	10.0～▲10.0	▲10.1～▲30.0	▲30.1～

＜業種別業況判断ＤＩと天気図（2018 年 4-6 月期）＞

製造業	食料品 ▲11.4	繊維工業 ▲13.0	木材・木製品 ▲16.7	家具・装備品 ▲12.5	パルプ・紙・紙加工品 10.6
	印刷 ▲25.7	化学 ▲1.0	窯業・土石製品 ▲10.5	鉄鋼・非鉄金属 12.0	金属製品 ▲2.8
	機械器具 1.2	電気・情報通信機械器具・電子部品 ▲4.8	輸送用機械器具 ▲0.9	その他の製造業 ▲9.2	
非製造業	建設業 ▲3.8	卸売業 ▲12.0	小売業 ▲26.7	宿泊業 ▲13.9	飲食業 ▲21.2
	対個人サービス業（生活関連）※1 ▲17.3	対個人サービス業（自動車整備その他）※2 ▲16.2	対事業所サービス業（運送・倉庫）※3 ▲6.3	対事業所サービス業（専門技術その他）※4 ▲2.5	情報通信・広告業 1.5

※1「対個人サービス業（生活関連)」は、不動産業、洗濯・理容・美容・浴場業、その他の生活関連サービス業等の８業種。

※2「対個人サービス業（自動車整備その他)」は、自動車整備業、機械等修理業。

※3「対事業所サービス業（運送・倉庫)」は、道路旅客運送業、道路貨物運送業、倉庫業等の５業種。

※4「対事業所サービス業（専門技術その他)」は、専門サービス業、技術サービス業、廃棄物処理業等の５業種。

（資料）中小企業庁「第 152 回中小企業景況調査（2018 年 4-6 月期)」より松前町商工会作成

（２）「調査対象企業のコメント」から見る経営上の問題点

- 建設機械部品の受注が好調なので、経営は安定している。**原材料、エネルギーコストの上昇**が経営を圧迫している。加工機械設備が特に老朽化しているので、早期に設備投資を計画している。［鉄鋼・非鉄金属 岩手］

- 毎年、仕入単価の上昇が少しずつあり、**メニュー単価を上げることも容易ではない**ので、悩みの種。**来年は消費税も上がる**為、新規レジの導入も検討しており、ポイントなどを付ける付加価値で消費者のニーズに応えたい。［飲食業 石川］

- **円安傾向、輸送費上昇による仕入単価の上昇が続く**見通し。また、従業員が高齢化しているが、次世代の人材確保も引き続き厳しい見通しです。［卸売業 兵庫］

- **従業員不足が今一番の問題**です。技能実習生制度にかなり頼っているところがある為、入国の遅れが売上減少になっています。新高卒も採用し育成していますが、かなり一人前まで育つには時間がかかりそうです。［繊維工業 和歌山］

- 完成工事高は増加しているが、**現場管理のできる人材が不足**している為、業況はなかなか好転ということはできない。［建設業 広島］

（資料）中小企業庁「第 152 回中小企業景況調査（2018 年 4-6 月期）」より抜粋

参　考

中小企業景況調査報告書【えひめ版】

愛媛県商工会連合会

全国商工会連合会では、四半期毎に景況調査を実施しており、本報告書は県内商工会地域の景気動向を【えひめ版】として作成したものです。

調査対象期間：平成３０年度第１四半期（平成３０年４月～６月期）

調査対象企業：１５０企業　　回答企業：１５０企業

（製造業：31 社　建設業：20 社　小売業：40 社　サービス業：59 社）

ＤＩ方式

ＤＩとは、各調査項目について〔増加・上昇・好転〕の割合から〔減少・低下・悪化〕の割合を差し引いた値で〔景気動向指数〕を表しています。

＊記号とＤＩ値の関係

快晴	晴	薄曇	曇	雨
～30.1	30.0～10.1	10.0～▲10.0	▲10.1～▲30.0	▲30.1～

１．　業況判断ＤＩと天気図（２年間の推移）

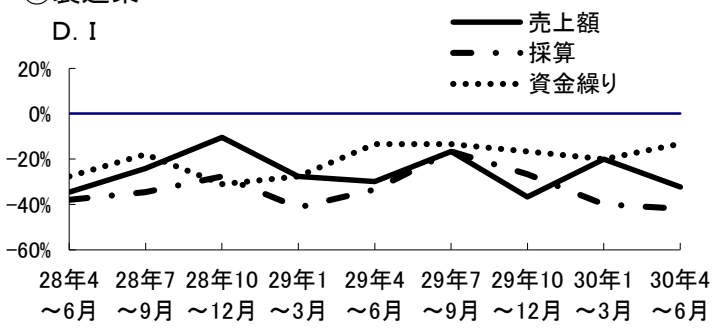
期別	業種別	①製造業		②建設業		③小売業		④サービス業		全体	
	平成28年 4～6月期		▲ 24.1		▲ 10.0		▲ 61.0		▲ 13.3		▲ 27.1
	平成28年 7～9月期		▲ 24.2		0.0		▲ 50.0		▲ 27.1		▲ 25.3
	平成28年 10～12月期		▲ 34.5		▲ 25.0		▲ 65.9		▲ 25.0		▲ 37.6
	平成29年 1～3月期		▲ 31.1		▲ 10.0		▲ 61.1		▲ 26.7		▲ 32.2
	平成29年 4～6月期		▲ 26.7		▲ 36.8		▲ 53.7		▲ 31.1		▲ 37.1
	平成29年 7～9月期		▲ 20.0		▲ 10.0		▲ 36.6		▲ 35.6		▲ 25.6
	平成29年 10～12月期		▲ 20.0		▲ 5.0		▲ 48.9		▲ 32.7		▲ 26.7
	平成30年 1～3月期		▲ 43.3		5.0		▲ 58.5		▲ 45.8		▲ 35.7
	平成30年 4～6月期		▲ 43.3		▲ 15.0		▲ 41.0		▲ 8.4		▲ 26.9
	来期見通し 7～9月期		▲ 40.0		▲ 5.0		▲ 30.0		▲ 12.0		▲ 21.8

（注１）業況判断ＤＩポイント値は、前年同期と比較して業況が「好転」と答えた企業の割合から「悪化」と答えた企業の割合を引いたもの

（注２）「全体」のポイント値は全業種の単純平均値

2.業種別景気動向

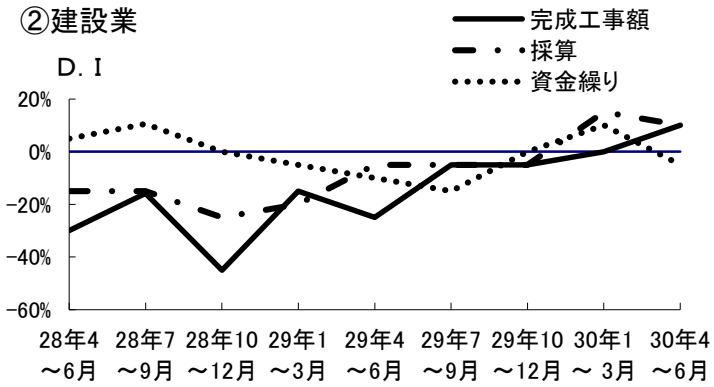
①製造業



<前期比>
売上額　：悪化（▲20.1→▲32.3 ポイント）
採算　　：やや悪化（▲40.0→▲41.9 ポイント）
資金繰り：やや好転（▲20.0→▲13.3 ポイント）

<経営上の問題点>（順位と比率）
1 位：従業員の確保難(20.0%)
2 位：原材料価格の上昇、製品（加工）単価の低下、上昇難(16.7%)

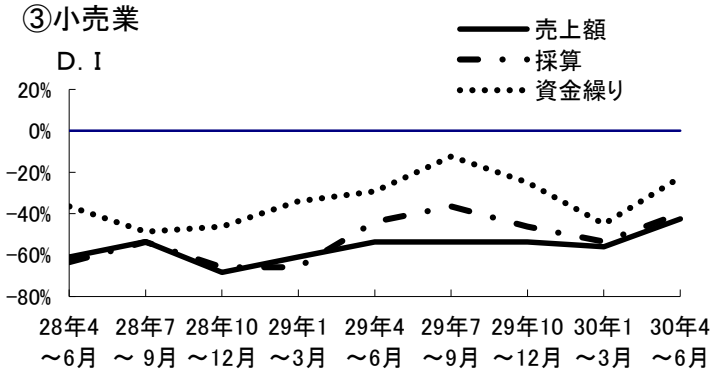
②建設業



<前期比>
完成工事額：やや好転（0.0→10.0 ポイント）
採算　　：やや悪化（15.0→10.0 ポイント）
資金繰り　：悪化（10.0→▲5.0 ポイント）

<経営上の問題点>（順位と比率）
1 位：材料価格の上昇、従業員の確保難、官公需要の停滞（20.0%）
2 位：民間需要の停滞（13.3%）

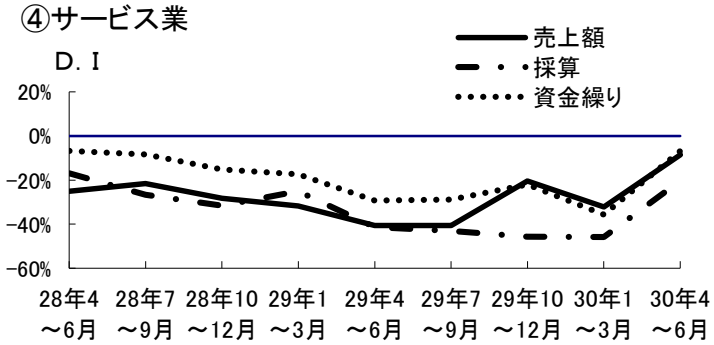
③小売業



<前期比>
売上額　：好転（▲56.0→▲42.5 ポイント）
採算　　：好転（▲53.6→▲40.0 ポイント）
資金繰り：好転（▲45.0→▲22.5 ポイント）

<経営上の問題点>（順位と比率）
1 位：購買力の他地域への流出（27.0%）
2 位：大型店・中型店の進出による競争の激化（16.2%）

④サービス業



<前期比>
売上額　：好転（▲32.2→▲8.5 ポイント）
採算　　：好転（▲45.8→▲20.3 ポイント）
資金繰り：好転（▲35.6→▲6.8 ポイント）

<経営上の問題点>（順位と比率）
1 位：店舗施設の狭隘・老朽化、材料等仕入単価の上昇（17.0%）
2 位：従業員の確保難、需要の停滞（15.1%）